

開院十六年目の岩谷医院、ヒヤシンス医療の実践は？

IT化が進み、電子カルテが広く普及すれば、患者さん(国民)の医療情報は「か所にまとめて保存することが可能になります。各医療機関はマイナンバーによって、必要な医療情報(患者さんの既往歴や現在服用しているくすりや病気の名前)などを瞬時に知ることができ、緊急時の対応などの時には大変便利で、その情報により医師は適切な処置を迅速に行なうことができるようになります。大きな病院の中では、各診療科間ですでに実践されていることですが、個々の医療機関の間ということになると、まだまだ時間がかかりそうです。岩谷医院の通院手帳はITではなく、手書きで情報を記入している効率の悪い方法ですが、その情報は確かなもので、緊急時の対応には必ず役に立つと信じながら診察の度にその記録を記載しています。情報を広く公開すること。ヒヤシンス医療の「ヒ」の「ひらかれた医療」の実践です。最近では患者さんもこのことを理解されて、外出の際などに「通院手帳とおくすり手帳」は「必ず持つていく」という方が増えています。手術や緊急時の入院、そして祝日や夜間の診療時に役に立ったという声も聞かれるようになり嬉しく思っていますが、逆に、通院手帳がなかったために情報が得られず、初期治療が遅れてしまったという残念なこともありました。折しも、世界全域でサイバー攻撃を受け、「コンピューター機能がマヒ」のニュースが流れています。通院手帳はサイバー攻撃にも負けませんが、ただし、どこかに忘れたり、落としたりしないようくれぐれも注意してください。大切な個人情報ですので。



ガーデンK&F

院長より一言

情報は正しく利用して!!

初めての患者さんを診察するときに、「どうして岩谷医院に来られたのですか?」と質問することがあります。以前は「知人に話を聞いて」など口コミでいらっしゃる方が多かったのですが、最近では「ネットで調べて、ホームページを見て」と答える方が増えています。また病気に関しても「ネットで調べたらこのように書いてあったので心配で」とか「週刊誌の見出しで怖くなって」など患者さんは多くの医学情報を簡単に知ることができるようになりました。それは良いことも多いのですが、逆にその情報に振り回されて、悪いことばかりを自分に当てはめて「頭一杯」、「身体一杯」ストレスをためて来院される方もいらっしゃいます。このような方の多くは情報の理解不足で、できるだけその点をわかりやすく説明すると納得され、顔つきも柔らかく、足取りも軽く、スキップで帰って行かれます。これは極端な話ですが、当たらずとも遠からずの方は結構いらっしゃいます。情報は正しく、「心配をするのはやむをえませんが、心配しすぎないように」。いつも言っていることです。

ピアノリスト辻井伸行さん

福島市 M・Wさん

六月十一日(火)の夜、私は友人三人の酒席を終えて一人で帰路についた。タクシーを拾おうと中台デパート宝くじ売場交差点に立った。ふと気が付くとあの辻井さんも信号待ちで隣にいる。ほろ酔い気分も手伝つて、私は辻井さんに話しかけた。よく覚えていないが多分こんなことを言っただろう。「僕は八十近い年寄り。音楽が大好きで、生懸命ピアノを弾いている。あなたに会えて嬉しい。さうと音楽の神様が僕にご褒美をくれたんだ。本当に嬉しい！」と。すると辻井さんから思わぬ質問が来た。「実は一寸一杯やりたいのだけれど、いい店教えて」「僕、これから五十年続いているピアノバーに行きます。二縮しませんか。」「じゃあ、行きましょう」瞬時に返ってきた。横断歩道の信号は青の点滅に変わっている。急いで渡った。「でも僕、ピアノは弾きませんからね」後ろから少年のような声が聞こえた。

行く先は五十年馴染みの宮町にある姉と弟二人だけの古い店だが、客は幸い皆無であった。辻井さんの親友のような同年代マネージャー中村氏と三人。辻井さんは酒が強い。カクテルを数杯飲んだ。

音楽の話が弾んだ。辻井さん、このとき二十四歳。物凄く純粋なのである。音楽を敬愛する心が最も大切だと説く。語る言葉もきれいで美しい。しなやかな指にも触れた。辻井さんは音楽の神様がこの世に遣わした天使ではないか、そう思えた。

話が私のピアノに及んだ。独学の自己流であること、ピアノ教室に通つてまだ二年目だと言ったが、いらいから弾け、とおっしゃる。覚悟して弾いた。ドビッシの「月の光」と「亜麻色の乙女」の冒頭部、そして「千と千尋

の神隠し」。この頃から辻井さんは「〇〇〇さん」と親しく私を呼ぶ。最後にRクレイターマン「渚のアデリーヌ」を弾いた。この曲は辻井さんが幼い頃この曲を弾いて「ピアノリストになろうかな」と思った大事な曲だったらしい。思いがけない演奏に辻井さんはよほど嬉しかったのだろう。「じゃあ、お礼に僕が弾く」と立ち上がったのである。

その前夜は県文化センターで辻井さんの震災慰問の演奏会があった。ドビッシとショパンが演目だった。弾いてくれたのは「月の光」であった。青白い月の光を浴びるアルハンブラ宮殿を連想するような、数分ほどの名曲である。ピアノの傍に直立する私の目から落ちる涙が止まらない。二曲目は自作の鎮魂の曲であった。時計は十二時を回ろうとしていた。

翌朝、ホテル辰巳屋の食卓に彼が大好きだという果物をお届けした。その後、マネージャー中村氏から小さい包が届いた。それは私がピアノを弾き、大きく首を振りながら聞いている辻井さんの姿と、終わりに辻井さんが「素晴らしい」と叫ぶ短い動画であった。

あれからちょうど三年が過ぎた。いまでも辻井さんとの交友は続いている。季節の果物もずっと届けるつもりだ。

二〇一六年六月 記

*ご本人の許可を得て、福島ロータリークラブ会報、二〇一三年六月十三日号より転載させていただきました。こんな事つてあるのですね。まったく夢のようなお話で、素晴らしい出会いがあるものです。(院長)



川柳箱より(短歌、俳句、川柳、詩など)

蒲倉琴子さん(福島市松川町)

俳句

牛ねまる如き安達太良遅日かな
外つ国の葉は彫金鶏合とどろあわやせ

平成二十九年度花見山俳句大会特選句

囲を半ば組みて思案の秋の蜘蛛
二ん月や水底にある水の影

*蒲倉さんの言葉使いは私には難しく、いつも解説をお願いしています。そして感心しています。皆さんはいかがですか?(院長)

川柳

翔屑さん(福島市天神町)

ひたむきに三月十一日鎮魂歌
平凡な日老老介護つないでる

激動を生きて米寿の祝い膳

桜吹雪窓越しにあびる杖一本

戦時中

背囊と銃が食い込む十五肩

軍隊で肉親の死二度会えず

戦友の落度対抗ビンタ班責任

戦後

同期会話題はいつも逝った戦友
減りつつも増えない宿命同期会

弔辞読み次は俺かと指を折る

*二度と戦争をしてはいけない。翔屑さんのメッセージを感じます(院長)

夢の人工心臓

岩谷文夫

大学を退職し開業して十五年、そして人工心臓の研究に携わっていた頃からは二十年以上の歳月が流れましたが、今でも何かの折に人工心臓の活字を目にするとか何やら心がときめきます。

読売新聞の連載「医療ルネッサンス」で人工心臓が取り上げられました。「人工心臓と生きる」と題し、三月六日から三月十三日まで計六回の連載記事でした。その中で拡張型心筋症による心不全のため人工心臓が植え込まれた四人の方が紹介されました。いずれも人工心臓により心不全から解放され、人工心臓を装着したまま一年以上が経過し順調に生活をされている方々です。

人工心臓を付けたまま、在宅で中古車販売の仕事をごなし、休日には家族と旅行に行ったりしている、三十八歳の男性、大学の研究室で実験をしたり、友人と映画も楽しむ、二十二歳の男性、大学院生、念願の長男の結婚式にも出席でき、好きな俳句を楽しむ日常を送っている、六十五歳の女性、そして人工心臓を植え込んで二年後に心臓移植を受け、今では好きなスキューも楽しめるようになった、五十三歳の男性。急性期の心不全への補助心臓の適応でも四苦八苦していた私たちの時代を考えると、まさに素晴らしい人工心臓と医療技術の進歩です。

この記事の中で私が最も印象深く感じたのは、人工心臓移植後約



ガーデンK&F

二年後に心臓移植をうけた男性が移植前にふと思った「なんだか(人工心臓が)自分から離れるのが寂しかった。信頼していたし、愛着もあった。自分の体の一部になつていたんだな」のくだりでした。今の人工心臓はここまで来ているのかという驚きと感激でした。そしてこの人工心臓の研究の流れの一端に、ほんの僅かでも自分が携われた嬉しさと誇りも感じました。

一九七七年(昭和五十二年)十月、米国のデトロイトからソルトレイクシティに移ったその日に、ユタ大学人工心臓研究施設の実験室に案内され、人工心臓の置換手術を受けて数か月たった仔牛が、空気駆動の二本のチューブに繋がれてはいましたが、一見普通に干し草を食む姿に、当時人工心臓の知識もなかった私は大きなショックを受けました。これが人工心臓との出会いでした。人工心臓は昔から心臓移植と比較されてきました。多くの研究者は人工心臓が心臓移植とともに、心不全治療の両輪になるべく努力を重ねて来ましたが、現在では人工心臓を付けても普通に日常生活が送れるほどになりましたが、心臓移植に比べると、体外の駆動装置とつながっているための行動の制約があります。心臓移植後のように全く自由な生活を送ることはできません。人類は今まで不可能とされてきた事をことごとく克服してきました。ここまで進歩してきた人工心臓。これからの目標は心臓移植に頼らない、体外とは連結のない人工心臓の開発と考えます。装置を小型化し、動力源は体外から充電可能で、抗血栓性、抗菌性の材料で、耐久性も兼ね備えた、人工臓器としては究極の「夢の人工心臓」の開発。まさに国家プロジェクトにふさわしい、心ときめくテーマではありませんか。

「ムムム」
「早く起きないとゴルフに遅れますよー！」 妻の声でした。

*平成二十九年の福島医科大学心臓血管外科同窓会誌への寄稿文から抜粋、一部加筆して掲載させていただきました(院長)

ゆきうさぎ四十五号の翔層さんの句に誤字がありました。お詫びして訂正いたします。

- (誤) 忠魂碑戦後遺骨は目の仇
- (正) 忠魂碑戦後遺族は目の仇
- (誤) 田中と呼べばコタマは角栄と
- (正) 田中さんと呼べばコタマは角栄と

康子さん(伊達市)

俳句

わが町が航路白鳥いずこ指す
雪来るか肩寄せ双体道祖神
風花や宙よりの声わらべうた
半生を他郷に白き味噌雑煮
花より花へ波の伝言野水仙

*その後入院された康子さん、二日も早い回復を願っています。(院長)

うさぎさん

川柳

エゴの木よ大空つかむ手のようだ
*川柳箱を気軽に利用してくださいね(院長)



ガーデンK&F

医院からのお知らせ



【平成29年の市民検診について】

昨年同様、6月より各種がん検診とメタボリック症候群に的を絞った特定健診（特定健診は一部4月より）が行われます。

【平成29年6月1日（木）～10月31日（火）】

特定健診・後期高齢者健診内容については前年度とほぼ変わらないということで、定期的に当院に通院し、薬を服用されている患者さんに対しては、少なくとも6ヶ月に1回は一通りの血液検査を行い検査結果を説明し、指導を行っておりますので、特定健診用の血液検査は必要ないと考えております。

各種がん検診については、当院では大腸がん・肺がん・前立腺がん・肝炎ウイルス検診について検診可能です。こちらはぜひ受けていただきたいので、該当の方は受診券がご自宅へ届き次第、診察医師または受付にお申し出下さい。また、胃癌などのがん検診も出来るだけ他院にて受けるようにして下さい。

なお、検診については完全予約となっております。受診券・保険証の確認と前もって問診票の記入が必要となりますので、お早めに診察医師または受付にお申し出下さい。

なにかご不明な点がございましたら、お気軽に受付に御相談下さい。

【※10月の検診末月になると、検診受付が出来ない場合もありますので、お早めに受付に相談、予約をお取りいただくようお願い致します。】

患者さんのコーナー

「盆栽コレクション」 福島市矢剣町 Mさん

*「ぼんさい」は世界中に愛好家がいる日本の文化ですね。Mさんは来院する患者さんが楽しめるようにと花のある盆栽を選んでお持ちいただいています（院長）



ヒメリンゴ ミヨシノ コショウバイ ツキカゲ



フウリンオダマキソウ ヤブデマリ ミツデイワガサ

あ と が き

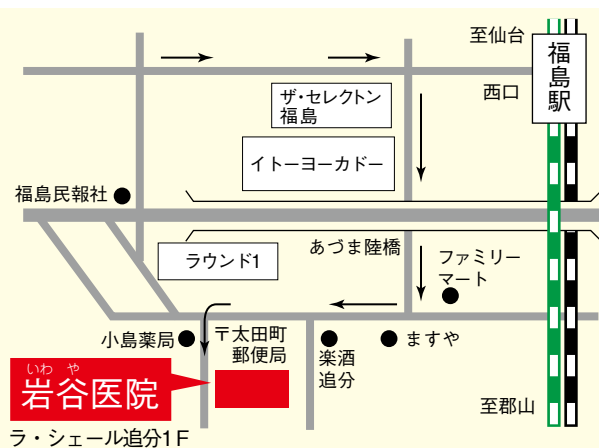
北朝鮮のミサイル発射実験や、世界各地で起こっている自爆テロなど、平和日本などと言ってはられない怖い時代になってしまいました。

岩谷医院は開院して16年目に入りました。多くの方にお世話になっての今があります。感謝の気持ちを忘れずに自分たちができることをこれからもやっていくつもりです。

引き続きよろしく願い申し上げます。



ガーデンK&F



【福島駅西口より 徒歩7分】

〒960-8068 福島市太田町17-27ラ・シェール追分1F
 でんわ 024-528-7770 / FAX 024-528-7780

★診療時間（予約の方が優先されます）

平日（木曜日を除く）は 午前9時～12時 午後2時～5時30分
 土曜日は 午前9時～午後2時（昼休みなしで診療いたします）
 休診日は 日曜日・祝祭日・木曜日

★診療項目

内科疾患・循環器疾患・動静脈疾患・先天性心疾患・人工弁管理・ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診・健康スポーツメディカルチェック など